



—北アフリカ地域ニュース—

エジプト：コプト教会信徒と軍・治安部隊の衝突

(10、11日付現地報道)

10月9日、コプト教会（キリスト教）信徒と軍・治安部隊との間で、衝突が発生した。現地報道の概要は、以下の通りである。

1. 9日の状況

- (1) 9日夕刻、数万人のコプト教会信徒が、シュブラ（カイロ南部のキリスト教徒地区）からカイロ中心部へと向かう抗議デモ行進を行った。一部報道によれば、コプト教会信徒を中心とする青年活動家たちが、このデモ行進を呼びかけたようである。
- (2) この行進は、アスワン県のマリナブ村での教会建設をめぐるコプト教会信徒とイスラム教徒との衝突を受け、アスワン県知事およびアスワン県警察署長の辞任を要求するものであった。
- (3) 9日夜、数千人のコプト教会信徒が、国営テレビ局前で座り込みを試みたことから、コプト教会信徒と治安部隊との間で衝突が発生した。テレビ局近くのアブデルモネムリヤド広場では、コプト教会信徒とイスラム教徒が衝突し、互いに石や瓶を投げ合う事態となった。

2. 10日の状況

- (1) 9日夜の衝突事件による死者は25人（うち3人は軍人）、負傷者は329人（うち60人は軍・治安部隊関係者）となった。また、20台以上の自動車が放火され、その中には軍の所有する車3台、警察の所有する車2台が含まれる。
- (2) 10日夜、カイロ市内（アッパーセイヤ地区）のコプト正教会大聖堂において、コプト教会信徒の殉教者（犠牲者）のための集団ミサが行われた。また、集団ミサに際し、コプト教会病院から大聖堂に至る道で、数百名規模の行進が行われ、参加者からはタンターウィー国軍最高会議議長や国軍最高会議に対する批判が叫ばれた。
- (3) 司法機関消息筋は、軍事法廷が25人の勾留者の審議を行うと述べた。また、グンディー司法相は、今回の事件は国軍に対して犯されたものであり、文民を軍事裁判にかけないとするタンターウィー国軍最高会議議長の決定の適用外の事案であると述べた。

3. 国軍最高会議・政府の対応

- (1) 国軍最高会議は10日発出の声明において、民政移管のための政治ロードマップを順守

し、議会選挙を期日通りに実施することを強調するとともに、政府に対して真相解明委員会を設置し、事件関係者に厳しい措置をもって対応するよう命じた。

- (2) 政府は10日、今後2週間以内に「統一礼拝施設法」を発出することを発表した。また、無許可で建設された教会の地位の法制化を検討することなどを発表した。

3. 宗教関係者の反応

- (1) 10日、タイイブ・アズハル総長は、コプト教会代表者、アズハル代表者などと共に声明を発表し、国軍最高会議および政府に対して教会建設を管理する法律準備を早急に完了させることを要求した。
- (2) 10日、シェヌーダ3世コプト正教会教皇アレキサンドリア総主教を長とするコプト正教会聖職者会議は、声明を発出し、「不審者がデモ行進に潜入し、コプト教会信徒の命を奪った今回の犯罪を行った」と述べた。